

2 外部資金等による主な研究課題

◇指定試験

昭和 6~12 年	抹茶に関する研究
昭和 5~7 年	てん茶利用に関する研究
昭和 10~16 年	新製茶の創製に関する研究
昭和 17~19 年	茶利用加工試験
昭和 20~21 年	茶業改善試験
昭和 17~19 年	茶利用加工試験

◇連絡試験

昭和 31~34 年	化成肥料試験
------------	--------

◇農薬連絡試験

昭和 31 年~

◇農林省耕土培養事業

昭和 35~36 年	土壤基本調査、改良対策試験
------------	---------------

◇果樹等発生予察実験事業

昭和 36 年~	発生予察
----------	------

◇農林省補助

昭和 35 年	茶の新利用加工
---------	---------

◇系統適応性検定試験

昭和 38 年~

◇総合助成

昭和 37~42 年	茶の新利用加工に関する研究
------------	---------------

昭和 41~43 年	製茶工程の機械化系列の策定に関する研究
------------	---------------------

昭和 41 年	緑茶の胴枯れ性病害等防除に関する試験
---------	--------------------

昭和 39~43 年	被覆茶園の摘採に関する試験
------------	---------------

昭和 43~47 年	茶栽培の省力機械化に関する研究（被覆の簡易化）
------------	-------------------------

昭和 44~47 年	茶製造技術の合理化に関する研究（精揉工程の計数化に関する研究）
------------	---------------------------------

昭和 47~49 年	被覆茶摘採のはさみ摘み化に関する研究
------------	--------------------

昭和 48~51 年	おおい下茶製造の初期乾燥法に関する研究
------------	---------------------

昭和 52~56 年	計測化による蒸しの改良に関する研究
------------	-------------------

昭和 56~59 年	てん茶の効率的乾燥法に関する試験
------------	------------------

昭和 60 年	玉露・てん茶原料の生産性向上のための枝条育成技術
---------	--------------------------

◇中核研究

昭和 50~54 年	化学繊維による覆い下茶の品質向上栽培技術
------------	----------------------

◇地域重要新技術開発促進事業

- 昭和 61～63 年 近畿地方における茶生産性向上のための効率的施肥、生育制御並びに枝条構成の改善技術
- 平成 2～5 年 茶樹の根系改善技術による生産性向上
「深型ポット利用による深根性苗の作出」
「挿木接ぎ及び接木による根系改善」
「根張り促進のための幼木管理法」
「根系改善技術の組み立て実証」
- 平成 6～9 年 中山間地域における緑茶の品質向上と環境負荷低減のための合理的施肥管理技術の確立
「肥料利用率の向上」
「茶園施肥管理体系の改善」
「環境負荷低減効果の評価」
「技術の組み立て実証」

◇高度技術活動事業（体質強化）

- 平成 10～12 年 茶園における環境保全的施肥管理技術

◇先端技術等地域実用化研究促進事業

- 平成 10～13 年 夏秋茶葉を用いた茶の多用途利用技術の開発
「新製茶・成分抽出技術」
「新利用原料の供給技術」
「新製品流通利用技術」
- 平成 14～15 年 茶害虫クワシロカイガラムシの環境保全型防除技術の実用化
- ◇先端技術を活用した農林水産研究高度化事業
- 平成 14～16 年 野菜、茶、ウメの原産地表示判定技術の開発
- ◇JST（国立研究開発法人 科学技術振興機構）
- 平成 19 年度 地域イノベーション創出総合支援事業重点地域研究開発プログラム可能性試験（実用化検討）研究（課題名「高濃度にテアニンを蓄積するてん茶の茎部の優位性実証試験」）
- 平成 20 年度 重点地域研究開発推進プログラム（シーズ発掘試験）課題名「最高品質遮光栽培茶を生み出す光環境の数値化」
- 平成 21～22 年 玉露、抹茶の高品質化が期待できる新たな茶用被覆資材の開発
- 平成 21～23 年 覆い下茶の熟成に関係する荒茶製造条件の解明による品質向上技術の開発

◇新たな農林水産施策を推進する実用技術開発事業

- 平成 21～23 年 茶の新害虫ミカントゲコナジラミの発生密度に対応した戦略的防除技術体系の確立
- 平成 21～23 年 新熱源を用いた高能率てん茶機（後半期工程）の開発
- ◇戦略的基盤技術高度化支援事業
- 平成 22～24 年 茶葉のかさ密度等を指標とした宇治煎茶の特色を活かす蒸熱条件の設定
- ◇プロジェクト研究（光プロ）
- 平成 21～25 年 野菜等の光応答メカニズムの解明及び高度利用技術の開発
(紫外線と茶品質関連成分との関係解明)
光制御による茶新芽の生育・品質のコントロールと栽培体系化
「茶の被覆栽培における光質制御による新芽形態・茶品質関連成分の関係解明及び品質向上技術の開発」
- ◇農水省実用技術
- 平成 23～25 年 中山間地域の茶業活性化に資する茶品種とその利用技術の開発
- ◇発生予察事業の調査実施基準の新規手法策定事業
- 平成 25～26 年 発生予察調査実施基準の新規手法策定事業
- ◇実用技術
- 平成 23～25 年 育成された茶品種の特徴を中山間地域において發揮できる栽培・加工技術の開発（中山間地地域の茶業活性化に資する茶品種との利用技術の開発）
- ◇消費・安全対策交付金
- 平成 24～26 年 茶の防除経費削減のための効果的病害虫防除技術の確立
- ◇農業機械等緊急開発事業（緊急プロ）
- 平成 24～26 年 傾斜地茶園における乗用型機械を利用した省力的直掛け栽培技術の確立
- 平成 25 年 新規被覆資材の性能調査
- 平成 26 年 直掛け被覆用機械の現地適応性調査と新規被覆資材の改良
- ◇新品種・新技術活用型産地育成支援事業
- 平成 26～27 年 新品種における霜害対策と色沢向上技術の確立
- ◇農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
- 平成 26～30 年 （イノベーション強化事業（育種対応型））
実需者の求める色、香味、機能性成分に優れた茶品種とその栽培・加工技術の開発
- 平成 27～29 年 （現場ニーズ対応型）
被覆茶需要に応える簡易な樹体診断法と効率的被覆作業による高品位安定生産体系の確立

熱画像による被覆影響評価技術の開発

樹体情報を指標とした茶樹の樹勢診断技術の開発

◇地域戦略プロジェクト（交付金）

平成 26～28 年 宇治茶の国内外の需要拡大に向けた新商品開発と生産技術の確立

「EU の農薬残留基準値をクリアする茶病害虫防除技術の確立」

「てん茶の風味・機能性を活かした新商品開発」

平成 28～30 年 京都ブランドの強化につながる「京食材」の魅力向上技術の確立

「覆い下茶の熟成を生かしたヴィンテージ茶の開発」

◇革新的技術開発・緊急展開事業（地域戦略プロ・先導プロ）

平成 28～30 年 一番茶の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証

平成 28～令和 2 年 新熱源てん茶機の性能向上と生産機による効率性の実証

「海外市場の飛躍的拡大を目指す高品質抹茶の低成本製造技術
及びカフェインレス抹茶系統の開発」

「新熱源てん茶機の性能向上と生産機による効率性の実証」

◇スマート農業加速化実証プロジェクト

平成 31～令和 3 年 中山間傾斜地茶園における高品質てん茶の省力的生産体系の構築

◇京都府茶業会議所機能強化費補助

平成 27 年 新熱源てん茶機の運転自動化技術の確立

平成 28～29 年 新熱源てん茶機の運転自動化技術の確立（うち従来型てん茶機の
運転自動化）

平成 30～令和 4 年 消費拡大に向けた特徴ある宇治茶の品質特性の解明

令和 5～6 年 玉露の消費拡大に向けた新たな飲み方の開発

◇全農委託 茶園における施肥効率向上技術の確立試験

平成 18～20 年 被覆肥料と硝化抑制剤入り肥料を用いた施肥体系

平成 21～23 年 肥効調節型肥料と油粕を併用した施肥体系

平成 24～26 年 樹冠下施肥と肥効調節型肥料及び油かすを組み合わせた施肥体系

平成 26～28 年 自然仕立ての覆下茶園におけるひまし油粕の効率的施肥技術の確
立

◇肥料メーカー委託

平成 26～28 年 自然仕立ての覆下茶園における石灰窒素の効率的施肥技術の確立

◇製茶機械メーカー委託

平成 25～26 年 鮮度保持装置（㈱寺田製作所）

◇府単(FS)

平成 24 年	てん茶機操作の自動化に向けた機内放射の測定技術
平成 25 年	CCD カメラ等を用いたクロロフィル蛍光画像測定法の茶樹への応用
平成 27 年	被覆条件下における反射光を利用した摘採適期判定・予測技術の開発
平成 29 年	茶壺に凝らされた工夫を現代に生かす抹茶品質保持技術の開発
平成 30 年	てん茶適性の早期スクリーニングに向けたてん茶用品種の葉の構造特性の解明
平成 30 年	茶葉の農薬除去の基礎研究
令和 2 年	秋芽の被覆が秋てん茶の品質関連成分及び被覆後の生育に及ぼす影響調査
令和 6 年	有機栽培茶の樹冠下のうねの機械除草に対応した仕立て法の検討
令和 6 年	茶の高温障害の実態解明
◇府単(FF)	
令和 7 年	気象経過に対応し、収量確保するための、茶園管理方法の解明・提案
令和 7 年	近年の気象条件における夏季被覆効果の把握
◇府単（プロジェクト）	
平成 26～28 年	宇治茶の国内外の需要拡大に向けた新商品開発と生産技術の確立
平成 28～30 年	ICT を活用した京都オリジナルのスマート生産技術の開発
平成 30～令和 4 年	宇治茶の機能性の解明と伝統技術に基づく新技術の開発による宇治茶ブランドの継承発展 宇治茶の優れた伝統技術を活かす省力的新技術の開発 「手摘み作業の省力自動化」 「手摘み園(自然仕立て園)における省力的防除技術の開発」 「本ず被覆作業および解除作業の省力化」 消費拡大に向けた特徴ある宇治茶の品質特性の解明 「統計的解析手法による宇治茶の含有成分の特徴明確化」 「宇治抹茶摂取による機能性評価」 「宇治茶の機能性を発現する茶生産技術の確立」
令和元～5 年	機械摘みてん茶における生葉データを活用した製茶工程の省力管理システムの開発
令和 3～5 年	With コロナ宇治茶プロジェクト・新生活様式での需要創造のための研究開発
令和 6～8 年	府内全域の中山間地域に適用可能な農作物管理適期を予測するシステム開発